● 読書感想文コンクール 小学校 1･2･3 学年 の部●

優秀賞

近藤　七音（こんどう　なおと）　松枝小 ２年生

作品名:「けんかの気もち」
図　書:けんかのきもち

けんかをこうたはちゃんとやめられた。先に「ごめんね」を言えた。こうたはそうゆうところがえらい。年上みたいにみえた。

けんかはしないほうがいい。けんかをすると、じぶんもいやな気もちだけど、あい手もいやな気もちになる。あいてが、わるいと思ったら、あやまるのはむずかしい。「けんかの気もち」はなかなかおいはらえない。「けんかの気もち」がおわったら、どうやってなかなおりをするかが大じだ。

この本のしゅ人公はたい。一ばんの友だちはこうた。なのに二人は大げんかをした。こうたは、すぐあやまったけど、たいは、「けんかの気もち」がなかなかおわらなかった。だけど、ちゃんとなかなおりが出きたおはなしです。

さいごに、たいが「でもこんどは、きっとぼくがかつ」と言っていた。ぼくもそう思う。

この本を読む前は、けんかをすると前よりもっとなかよくなれるなんて、本とうかなと思ったけど、前よりもっともっとなかよくなれるんだなと思った。

ぼくは、こうたみたいにこれからは、ちゃんと「ごめんね」を言えるようになりたい。